

6 今年度の重点課題に対する総合評価

本校では、「共通教科・専門教科（商業）教育」「部活動」「多彩な活動」等あらゆる機会を通して人格の形成を目指しながら、地域社会や職場に貢献できる実践的な逞しい生徒の育成を図っている。本年度も、5項目の重点課題を挙げて、全教職員で共通理解を図りながら取り組んだ。

- (1)「学習活動1」では、生徒の興味関心や学習に対する意識、学力が多様化している中で、生徒の理解度が目標を上回る高い数値となったことは、教員が生徒の理解を深めるための、より良い授業を目指す取り組みが、成果として現れている。しかし、「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、授業評価アンケートで生徒各自が、「学習成果」（知識・理解・技能・思考力・判断力・表現力等）の到達度について、自己評価する機会を年に数回設ける必要がある。さらに、ICT機器の活用やアクティブ・ラーニング型授業への移行期の中、教員が世代や経験、担当教科を超えたワーカー精神で研修に取り組んでいかなければならない。
- (2)「学習活動2」では、1・2年の小学科の基礎科目、重点科目の授業内容の理解度が目標を超え、また、3年の資格取得目標検定の取得率についても目標が達成されており、先生方の指導の成果と考えられる。しかし、検定の問題傾向が以前より思考力、判断力を求めることが多くなっており、検定科目以外の科目においても、文章や相手の話を正確に理解し、自分の考えを筋道立てて表現する能力の育成を期待したい。ただ、働き方改革が叫ばれる中、教育現場では、先生方の業務負担が危惧される。目指す検定試験の精査、管理事務等の軽減を図り、授業準備や生徒と直接向き合える時間の充実を図る必要がある。
- (3)「学校生活」では、社会や家庭の価値観が多様化し、家庭での躰がなおざりになっている中、生徒の反応のみに囚われず、生徒たちの将来をしっかりと見据え、教育者としての使命感をもって生徒指導に取り組む必要がある。講師招聘事業やインターンシップなど、外部の方々との貴重な接点等をも生徒指導に活かし、気持ちのよい挨拶、聞く姿勢を、その都度、課題に挙げて取り組んでいかなければならない。
- (4)「進路支援」では、1年の個別指導回数が目標を達成し、また3年生の進路の満足度が100%である。先生方の日頃の取り組みと学生との信頼関係の高さを感じる。しかし、生徒の中には、自己理解が不十分で、安易な進路選択をしている場合がある。大切なことは、生徒自身が適性や学力を知ることであり、高校入学後であれ、早期に進路を考える機会の設定が肝要である。また、保護者を含めた三者の意思疎通のあり方を、さらに検証していく必要がある。
- (5)「特別活動」では、部活動を通して自分が成長できたと感じる生徒の割合と、ブロック大会以上の大会に出場した生徒の割合が、年度当初の目標を超えているのは、生徒の熱意と先生方の指導の成果である。ただし、部活動で成果の上がっていないと感じている生徒のうち、その理由として、部員の意識の低さを挙げている者が存在している。それは、高いレベルの意識を持った生徒の意見だと考えられるが、全体のレベルを引き上げるためにも、改善策を講じていかなければならない。

今年度は、昨年に引き続き、小学科（4科）の特色を明確に表す取り組みに、一層の力を入れた。各学科毎に大学から講師を招聘して行った学科探究講座や、3年生の学科別講演会を始めとし、流通経済科の企業実習、国際経済科の1・2年生のイングリッシュキャンプを実施できた。会計科は1年生で税務研修、2年生で租税教室を高岡税務署や税理士会から講師を招聘して実施した。情報処理科は情報通信関連企業によるプログラミング研修等を実施した。今後、各学科とも、より一層の工夫を凝らして特色を明確に表すようにしなければならない。

7 次年度に向けての課題と方策

- (1)進路志望が多様化する中、基礎学力の定着と資格取得の更なる推進を図り、定期的な面接や生徒への声かけ等を実施することが重要である。また、入試制度の変更に伴い、就職にも役立つ外部試験の実施時期や方法を模索することが急務である。さらに、各自が高い目標を掲げ、自己実現を図るためのノウハウを身につけさせることが必要であり、家庭学習の定着、やる気（意欲）をかきたてる指導の在り方等を教職員が共通理解のもとで連携して取り組んでいくことが必要である。
- (2)近年、AI、IoT等の社会情勢の変化に伴い、将来の職業選択に変化の兆しもあるが、産業界では、論理的な思考力や想像力、答えのないものに対する処理能力が求められている。また、商業教育にとって必要不可欠な地域社会との連携も強化していく必要がある。

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和元年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動1 (教科指導)	
重点課題	「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業実践と確かな学力の向上	
現 状	生徒の興味関心や学習に対する意識、学力などが多様化しており、学習への取り組み方や理解度・定着状況に差が表れている一方で、社会が求める人物像や新しい学力観に向け、生徒が主体的・対話的に学び、学習を深めるための授業改善を進め、生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を高め、確かな学力を定着させることが必要である。	
達成目標	校内研修 (研究授業、互見授業) に参加した回数 「提出されたレポート」の枚数	授業内容の理解度 ふりかえりシートを活用し理解度を自覚させる等、積極的な学習活動につなげる。
	2回以上 (内1回はAL・ICT型授業)	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・年2回の校内研修期間を設定し、可能な範囲で「主体的・対話的で深い学び」に向けた研究授業や互見授業を実施する。提出された研修レポートはPDF化してネットワーク上に公開し、全教員が成果を共有する。・学習意欲を喚起させ、学習計画を立てさせるため、年5回定期考査前に教務通信「StudyNavi」を配布し生徒に活用させる。・各学期末に「学習ふりかえり WEEK」を設定し、「学習ふりかえりシート」を用いて学習に対する意識や理解度など、生徒自身が学習活動をふりかえる時間を確保する。また授業評価アンケートを実施し、「わかる授業」への工夫、改善を考える参考とする。・研修レポートの内容やふりかえりシートの分析結果の検討を教科や学年で行い、指導法の研究や学習意欲の向上など、学習指導の充実を図る。	
達成度	1.8回(実施授業の38.5%がAL・ICT型)	全体 92.1%(2学期)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・今年度の校内研修の期間は、5月と県教育委員会による学校訪問の機会を活用した10月の2回を設定。5月研修は、年次研修対象者を中心に研究・互見授業、10月研修は、すべての教員が教科ごとの指定授業に参加し、授業の後には研究協議会を持った。また、この機会に学校が抱える諸課題についても助言をもらう等、充実した研修となった。・教務通信「StudyNavi」では、学習意欲の向上を図る目的で、裏面に考査前の学習計画表を載せるなど、その時期や学年に応じた内容になるよう工夫している。・「学習ふりかえりシート」を活用し学習に対する振り返り、授業評価も実施した。	
評 価	B	教員の校内研修参加回数は、1.8回と前年度と変わらなかったが、学校訪問における研究協議会では、深い内容の協議が行われた。しかし今年度も提出されたレポートの数が予想を下回り、目標回数に到達しなかった。一方生徒の理解度は各学年とも高い数値が続いている。
学校評議員の意見	「主体的・対話的で深い学び」の実現のために授業評価アンケートで生徒各自が、「学習成果」(知識・理解・技能・思考力・判断力・表現力等)の到達度について自己評価する機会を年数回設けていただきたい。また、ICT機器の活用やアクティブ・ラーニング型授業への移行期の中、教員が世代や経験、担当教科を超えたワンチームの精神で研修に取り組みされることを期待する。	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・今年度のICT機器を活用した授業、AL型授業への取り組みが若干少なくなったように感じられた。教科の特性もあり、導入が難しい教科もあり、他校の活用状況等の情報を参考に全ての教科での取り組みができるよう授業改善に取り組みしなければならない。学校訪問において、グループ・ペア学習の少なさが指摘されたが、生徒が主体的に活動できるよう教科を超え指導技術を共有できるように研修を企画する必要がある。・生徒の学習ふりかえりについては、各科目の理解度も重要であるが、各教科を通して育てる「言語能力」について成長を測定できるツールが必要である。	

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

(様式5)

8 (学校アクションプラン)

令和元年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学習活動2 (検定指導)	
重点課題	小学科における重点科目の学習理解度の向上と資格取得	
現 状	商業の各科目に関する専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図ることを指導目標としている。小学科ごとに重点科目を設け学習理解の到達度を確認するとともに、全国商業高等学校協会主催の資格取得目標を掲げることにより学習理解到達度や資格取得達成率の向上を図っている。	
達成目標	1・2年生は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容の理解度 流通経済科：ビジネス基礎、マーケティング 国際経済科：簿記、ビジネス経済 会計科：簿記、財務会計Ⅰ 情報処理科：情報処理、ビジネス情報	3年生は3年間を通して小学科の資格取得目標検定1級の1種目以上取得達成率 流通経済科：全商商業経済・簿記・珠算電卓 国際経済科：全商英語・簿記・商業経済 会計科：全商簿記・珠算電卓(日商簿記2級) 情報処理科：全商情報処理・簿記・商業経済
	80%以上	50%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に各学科の教育目標、重点科目、取得資格目標検定について説明を行い、生徒の学習意欲を引き出す指導方法を工夫する。 生徒の検定取得に関する実態調査を行い、検定取得実現に向けての具体的方策、改善点について考える。 教員が各学科の取得目標とする検定の学習内容の研究を深め、教員間でより効果的な指導方法について意見交換を行う。 	
達成度	全体 92.0% $\left(\begin{matrix} 1\text{年生 } 89.0\% \\ 2\text{年生 } 94.9\% \end{matrix} \right)$	54.2%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に各学科の学習内容、重点科目、取得資格目標検定と年間受験スケジュール、実践的活動を示し、検定取得に向けての学習意欲の高揚を図った。また、重点期間においては、検定取得に向けて朝学習や補習にも取り組んだ。 授業でのICT機器を利用し、学習課題への興味関心を高めたり、学習内容をわかりやすく説明したりする授業改善に取り組んでいる。また、授業でのグループワークやディスカッションを取り入れ、主体的・対話的な学びも意識し実践した。 1年生の簿記検定受験直前には、校内で作成した模擬問題による受験対策を行った。 1・2年生は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容に関して理解度を確認する調査を実施している。教員は日頃の授業の指導用内容を振り返る機会となり、より効果的な指導方法を互いに研究するなど授業改善に努めた。 	
評価	A	1・2年生は多くの生徒が小学科の基礎科目、重点科目の授業内容について概ね理解しており、目標を達成した。3年生では取得目標を明確にし、重点科目の理解度が進む授業実践などにより、小学科の資格取得目標検定の取得率については目標に達することができた。
学校関係者の意見	検定科目以外の科目においても、思考力・判断力を高めるために、文章や相手の話を正確に理解し、自分の考えを筋道立てて表現する能力の育成をお願いしたい。また、働き方改革が叫ばれる中、教育現場では、先生方の業務負担が危惧される。目指す検定試験の精査、管理事務等の軽減を図り、授業準備や生徒と直接向き合える時間の充実を図っていただきたい。	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生で小学科の基礎科目、重点科目の理解度は概ね目標を達成していたものの、さらに生徒が主体的に学べるような授業展開を工夫するとともに、理解していない生徒には個別指導による継続的な指導を徹底し、学習意欲を高める必要がある。 検定の出題内容は以前より思考力、判断力を求める問題が多くなっている。ICT機器の利用などから学習課題への興味関心を高めたり、学習内容をわかりやすく説明するなど、理解しやすい授業になるよう指導方法を含めた授業改善を推進していく必要がある。 	

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：達成できなかった)

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和元年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	学校生活（生徒指導）	
重点課題	品格のある生徒の育成	
現 状	生活環境が多様化している中、あいさつや時間厳守・頭髪や服装等の自律に乏しい生徒が見受けられる。また、交通マナー（自転車運転）が身につけていない生徒も見受けられる。 スマートフォンの所有率は95%、そのうちSNSの使用率は94%にのぼるが、ネットトラブルを起こしたり、使用ルールを守れない生徒が見受けられる。	
達成目標	頭髪再検査を必要としない者の割合	スマホ3ヶ条のうち2項目以上を遵守できる者の割合
	95%以上	75%以上
方 策	・挨拶や身だしなみ等の基本的な生活習慣指導や、登下校中の交通ルール厳守等、規範意識を高め、他人への思いやりを育成する指導を行う。 ・遅刻や頭髪再検査を繰り返す生徒を早期に把握し、本人との面接や保護者と連携を図り、生活習慣の改善を促す指導を行う。 ・月例交通安全街頭指導日を中心に、積極的な交通安全活動を促す指導を行う。 ・「スマホ3ヶ条」の啓蒙活動を生徒中心に展開しながら、情報モラルの向上を促す指導を行う。	
達成度	全体 95.1% 1年生…91.0% 2年生…96.1% 3年生…97.6%	全体 75.9% 1年生…80.5% 2年生…71.2% 3年生…76.9%
具体的な取組状況	・スマホ3ヶ条を1年生に説明し遵守を促した。（4月） ・生徒会やPTAと協力し、あいさつ運動や地域清掃活動を実施した。（6月） ・教員と生徒の共通理解を図りながら、頭髪・服装検査を年間7回実施した。 ・自律委員とサイクル安全委員が中心となり、毎月街頭指導（1日・15日）を実施し、交通マナーの遵守を促した。 ・自律委員が中心となり、スマホ3ヶ条の啓蒙活動をクラス内で行った。（5月より月1回程度）	
評 価	A	・頭髪再検査を必要としなかった者の割合は、95.1%であった。 ・スマホ3ヶ条のうち2項目以上遵守できた者の割合は、75.9%であった。
学校関係者の意見	社会や家庭の価値観が多様化し、家庭での躰がなおざりになっている中、生徒の反応に囚われず、生徒たちの将来を見据え使命感をもって生徒指導に取り組んでいただきたい。講師招聘事業やインターンシップなど外部の方々との貴重な接点を生徒指導に活かし、気持ちのよい挨拶、聞く姿勢をその都度、課題に挙げて取り組んでいただきたい。	
次年度に向けての課題	・生徒の生活環境が多様化している中、専門高校生としての強み（身だしなみ・言葉遣い・あいさつ等）をしっかりと身につけさせ、品格を育てる指導を継続していかなければならない。（H・R、学年集会、全校集会等） ・PTAや保護者との緊密な連携のもと、交通マナー（自転車運転）や電車・バス等の乗車マナーの向上に努め、社会規範を遵守させる指導を強力に推し進めていかなければならない。 ・「スマホ3ヶ条」をリニューアルし、生徒中心の啓蒙活動を通して定着化を図らなければならない。（11～7運動）	

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：達成できなかった)

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和元年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 4 -			
重点項目	進路支援 (進路指導)		
重点課題	将来を見据えた進路指導への取り組み		
現 状	<ul style="list-style-type: none">生徒が自分自身の個性や適性を知り、将来の職業や人物像について考えを深める機会が少ないため、進路を意識する時期が遅い傾向にある。進路希望も多岐にわたり、朝補習、放課後の個別指導など、一人ひとりの進路に対応した指導を行っている。		
達成目標	個別指導の成果 1・2年生 個別に指導する面接回数・進路講座の実施回数 3年生 進路に対する満足度(就職内定企業・進学予定校)		
	1・2年生 2学期末まで2回以上 3年生 95%以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none">生徒には学年集会等で「進路の研究」の活用を促す。学年には個別面接計画の提案等、面接指導の機会を提供し、面接シートの記入等記録に残る面接となるよう働きかける。また、面接内容も生徒理解に加え将来の職業を話題にするなど、将来の生き方を考える中で高い目標を設定できるよう支援し、生徒の主体的な進路選択を促す。主体的な進路選択につなげるため、進路決定に役立つ情報等の充実を図り、積極的な利用を促すことで、自己の持つ資質・能力を伸ばす力を身に付けさせる。2学年終了までに進路目標を持てるよう進路講座を複数回実施し、アンケート等により実態把握と意識調査を行う。また、卒業生に対する追跡調査を実施し、進路指導の充実を図る。		
達成度	<table border="1"><tr><td>・面接指導回数 1年生 2.1回・2年生 2.3回 ・進路講座実施回数 1年生 2回・2年生 0回(休校により未実施)</td><td>・3年生の進路に対する満足度 就職 100% 進学 100%</td></tr></table>	・面接指導回数 1年生 2.1回・2年生 2.3回 ・進路講座実施回数 1年生 2回・2年生 0回(休校により未実施)	・3年生の進路に対する満足度 就職 100% 進学 100%
・面接指導回数 1年生 2.1回・2年生 2.3回 ・進路講座実施回数 1年生 2回・2年生 0回(休校により未実施)	・3年生の進路に対する満足度 就職 100% 進学 100%		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">面接のためのインタビューシートの積極的な活用を促し、気軽に面接できる雰囲気作りに努めた。進路希望調査を年3回行い、生徒の希望を先生方の指導に行かせるように努めた。卒業生との懇談会(7月)・進路講座(12月)・進路週間(3月)等を実施し、その中では進路講演会・進路説明会等を行い生徒の進路意識を高めた。土曜講座では、進学者対象に小論文・面接指導、就職者対象に面接指導を合わせて12回実施し、また、公務員対象者に全5回を実施した。		
評 価	A 面接指導回数・進路講座実施回数は、2学期末までに目標を概ね達成している。ただ、1年生で全く面接をしていない生徒もいるので今後実施してもらう。3年生に対する満足度では、進路決定については全ての生徒が満足している。		
学校関係者の意見	3年生の進路に対する満足度が100%であり、先生方の日頃の熱心な取り組みが成果につながっている。生徒の中には、自己理解が不十分で安易な進路選択をしている場合があるので、生徒自身が適性や学力を知り、早期に進路を考える機会の設定や保護者を含めた三者の意思疎通のあり方の検証をお願いしたい。		
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none">「進路の研究」の活用を先生方へ促し、ホームルーム等を通じて進路意識を高めもらう必要がある。個別面談や進路講座を通して、進路意識の高まりが見られる一方で、依然意識の低い生徒もいることから、さらなる啓発活動が必要である。2年生までに進路目標を持ち、3年生で進路実現に向けた取り組みができるように進路講座等の内容を検討する必要がある。進学・就職を問わず、社会が求める人材を育成するため、商業科目だけでなく普通教科も含めて、基礎学力の充実を図らなければならない。		

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和元年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 5 -			
重点項目	特別活動		
重点課題	部活動の充実と競技力の向上		
現 状	部活動を人格形成の重要な柱と位置づけ、全員部活動制を設けている。各部は高い目標を掲げ、達成するために、課題を追求しながら自発的に活動している。また、スポーツ庁のガイドラインに則り、県方針を踏まえた部活動の在り方を検討しながら、工夫した練習を行っている。		
達成目標	部活動を通して競技力の向上と豊かな心の成長を感じられる生徒の割合	ブロック大会以上の大会に出場した生徒の割合 (エントリー数÷大会がある部の在籍生徒数×100)	
	85%以上	60%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none">・毎週木・金に「全員部活動の時間」を設定し、全校挙げて部活動に取り組む。・テクニカルエキスパート、トレーニングエキスパートによる技術指導・生活指導等を充実する。・トレーニングハウスの機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図る。・県内外の強豪校との練習会等により、技術の向上を図ると共に、意識の高揚に努める。・生徒が目標を持って学校生活に取り組めるよう、根気強くフォローし、リーダー研修会等を開き、リーダーとしての資質を高める。・生徒が部活動で自己成長を感じられるように、各部の活動内容を見直す。		
達成度	部活動を通して自分が成長したと感じている生徒の割合 91.5%。	ブロック大会以上の大会に出場した生徒の割合 66.0%	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・毎週木・金に「全員部活動の時間」を設定し、全校挙げて部活動に取り組む。・テクニカルエキスパート、トレーニングエキスパートによる技術指導・生活指導等を充実する。・トレーニングハウスの機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図る。・県内外への強化合宿等により、技術の向上を図るとともに、意識の高揚に努める。・生徒が目標を持って学校生活に取り組めるよう、根気強くフォローし、リーダーとしての資質を高める。・生徒が部活動で自己成長を感じられるように、各部の活動内容を見直す。		
評 価	A 部活動を通して、実力・挨拶・考え方等が成長したと感じている生徒は、「大いにある」が41.2%、「ある程度ある」が50.3%であった。	A	ブロック大会以上の大会に出場した生徒の割合は昨年の51.2%から66.0%に上がった。
学校関係者の意見	部活動を通して自分が成長できたと感じる生徒の割合とブロック大会以上の大会に出場した生徒の割合が目標を超えているのは、生徒の熱意と先生方の指導の賜である。ただ、部活動で成果の上がないと感じている生徒のうち、その理由として部員の意識の低さを挙げている者がいる。それは、高いレベルの意識を持った生徒の意見だと思いが、改善されるよう期待する。		
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・スポーツ庁のガイドラインに則り、県方針を踏まえた部活動の在り方を検討しながら、工夫した練習を行っているが、より良い活動を目指して行う。・安全管理の面からも、全員部活動の時間に各部顧問の先生方に活動場所にいき、生徒の活動を見守るようお願いする。・昨年と同様に、部活動以外でも頑張ったことに、検定取得(学習)や、マナーを身につける・コミュニケーションを図るなどがあがっており、社会人としての意識の向上を目指した活動を図る。		

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)